



大樹のこころ

誇らしい2学期

今日で2学期が終わります。ついこの間、夏休みが終わったと思っていたのですが、とても早く過ぎたような気がします。それだけ今年度の2学期が「密度が濃かった」と言えます。今学期を振り返ったときに、一つの言葉が思い浮かび上がりました。それは「誇らしい」というワードです。

最初に誇らしさを感じたのが、ブロック水泳記録会でした。今年は本校が会場校となりました。来賓で来られた教育長が「素晴らしい運営。大樹寺小の選手の応援も素晴らしい。過去一の記録会だ」と褒めてくださいました。球技大会では、本校は女子バスケ部の会場校でしたが、見事女子バスケ部が優勝してくれました。閉会式では会場責任者として賞状を渡したのですが、誇らしい気持ちでいっぱいでした。続いては運動会です。150周年記念運動会と銘打たれただけに、今年は何の学年も例年以上に気合いの入った演技を見せてくれました。特に5・6年の野外劇「家康の自立」では、大河ドラマ「どうする家康」に合わせて衣装や音楽も一新。いつも以上に華やかさのあるものとなりました。参観された来賓の方が「今年は一段と気合を入れましたね。見応えがありました」と言ってくださいました。大人を感動させることができる子供たちを誇らしく思いました。



2学期に学校現場では、授業研究が多く行われます。今年は何語科・算数科・特別支援教育・学習情報の4つの教科・領域で外部講師を招いて公開授業が行われました。全ての授業が大成功でした。授業後に全職員での協議会があるのですが、どの外部講師も「大樹寺小はレベルが高い」と口にされました。また11月に学校評議員さんが、授業の様子を参観されたこともあり、子供たちの活発な話し合いやタブレット端末を活用した授業に驚かれ、同時に感心・感動されていました。評議員さんから賞賛の声を聞かされたときに、誇らしさを感じていきました。

そして12月2日の150周年記念式典です。全校の子供たちが遺訓を唱和する姿、「家康に学び家康を超える」という決意表明、そして和太鼓部・和太鼓衆 SHIN・教員によるコラボ演奏。これらの一体感に喜びを抱きながら、大樹寺小学校を「誇らしい」と感じる気持ちが大きくなっていきました。

本当にいろいろあった2学期でした。大河ドラマ「どうする家康」も最終回を迎え、大きな節目となりました。3学期からは「中校舎改築」という大事業が始まります。それに向けて、冬休みはちょっとした休息期間。保護者の皆様も、お子様と一緒にゆったりとした時間をお過ごしください。年明けには、元気な子供たちと再会できることを楽しみにしています。よいお年を！